

## 有識者会議 会議録（議事要旨）

会議の名称	平成 29 年度 第 1 回かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成 29 年 6 月 22 日（木） 15 時 06 分～17 時 27 分
開催場所	霞ヶ浦庁舎 大会議室
出席委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大塚 洋一郎 委員</li> <li>・狩野 良和 委員</li> <li>・川島 宏一 委員</li> <li>・川村 成二 委員</li> <li>・工藤 浩一 委員</li> <li>・櫻井 理恵 委員</li> <li>・兵藤 昭彦 委員</li> <li>・菊池 克幸 委員</li> <li>・渡辺 一洋 委員</li> </ul> <p style="text-align: right;">（計 9 人）</p>
欠席委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤 清 委員</li> <li>・古橋 智樹 委員</li> <li>・真藤 実男 委員</li> </ul> <p style="text-align: right;">（計 3 人）</p>
出席 (オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡邊 亨（関東経済産業局地域振興部地域振興課係長）</li> <li>・稲垣 陽介（関東経済産業局地域振興部地域振興課係長）</li> </ul> <p style="text-align: right;">（計 2 人）</p>
事務局等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西山 正（地方創生・事業推進担当）</li> <li>・板垣英明（地方創生・事業推進担当）</li> <li>・貝塚裕行（地方創生・事業推進担当）</li> <li>・猪俣直宏（地方創生・事業推進担当）</li> <li>・鈴木 薫（地方創生・事業推進担当）</li> <li>・木村俊夫（保健福祉部健康づくり増進課）</li> <li>・大久保昌明（保健福祉部子ども家庭課）</li> <li>・大久保定夫（環境経済部農林水産課）</li> <li>・根本和幸（環境経済部観光商工課）</li> <li>・大久保 勉（重点事業企画推進担当）</li> <li>・山口由晃（教育委員会生涯学習課）</li> </ul> <p style="text-align: right;">（計 11 人）</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 委員紹介</li> <li>4 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について                 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地方創生加速化交付金事業について</li> <li>② かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略「アクションプラン進行管理表」(H29.3 末現在) (案) について</li> </ol> </li> <li>(2) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2017 改訂版）(素</li> </ol> </li> </ol>

	案) について (3) 意見討論 (自由討論) 5 その他 6 閉会
審議内容の記録 (審議経過、結論等)	
<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 あいさつ</b></p> <p><b>【川島座長】</b></p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>この有識者会議は、総合戦略策定の際にかなりの議論を尽くしたと記憶しております。かすみがうら市の総合戦略は、意欲的なものも含めて非常に盛りだくさんとなっておりますが、この会議で100点を取らなければいけないんじゃないかという議論ではなくて、適宜、修正していきながら、新しいことが出てくれば新しい知恵を盛り込みながら、さらに良くしていくということが、皆さんの議論の中で新しく組み立てられていけばいいんじゃないかと思っておりますので、できる限り忌憚のないご意見を交わしていただきたいと考えております。</p> <p>また、テレビのプレゼンスやあるいはさまざまな地域の今までの活動というものも少しずつ世の中に浸透しつつあり、かすみがうら市の知名度といいますか、具体的な活動の勢いというものも少しずつ感じているところでもありますので、この有識者会議を通じて、さらなる飛躍を皆様と一緒に協力したいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p><b>【西山理事】</b></p> <p>本日はお忙しい中ご参集いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>今日は新たに有識者のメンバーとして、関東経済産業局から工藤様、茨城新聞社から菊池様にご参加いただきまして、皆様からさらなるご意見を頂戴していきたいということで、今年度第1回目の会議を開催させていただくことになりました。</p> <p>冒頭、川島座長から市のプレゼンスがだいぶ上がってきているのではなかという、大変うれしい評価をいただいたところでありますが、創生の戦略に関しましては、ちょうど平成29年度が中間年ということになりますけれども、まだまだ道半ばのところがあるのではないかと自己反省しているところあります。</p> <p>役所の仕事というのは、計画を策定してそれを実行していくに当たって、いかにも実行されているかのようにできるだけ取り繕っていく癖があるというのは、皆さんもご存じのことかと思いますが、我々は、そうなってしまっはしょうがないということで、実直に現在の我々の立ち位置を点検していこうということで、今年度に入りましてから、各関係課の方にヒアリングを行いまして、そこで聞き取った内容を踏まえて、進捗状況を資料にまとめさせていただいたところであります。</p>	

私の率直な感触としましては、中間年にこういう状況というのは、なかなか厳しいものがあり、今後さらに頑張っていかなければいけないと考えているところであります。

本日は、皆様の自由闊達なご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

### 3 委員紹介

【菊池委員 茨城新聞社土浦・つくば支社 支社長】

【工藤委員 関東経済産業局地域経済部地域振興課 課長】

#### 【事務局】

欠席の連絡を受けている方は、土浦地域労働者福祉協議会会計監査の伊藤清様、株式会社Mind-Neo代表取締役の古橋智樹様、かすみがうら市商工会会長の真藤実男様で、3人を合せて合計12名の有識者会議の委員となる。

本日、オブザーバーとして、関東経済産業局地域振興部地域振興課係長の渡邊亨様、関東経済産業局地域振興部地域振興課係長の稲垣陽介様に出席いただいている。

それでは、かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第6条の規定により、座長が議長となることとなっているので、進行を川島座長にお願いする。

### 4 議事・質疑

#### (1) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について

##### ① 地方創生加速化交付金事業について

#### 【川島座長】

この議事については、国の予算を活用したプロジェクトなので、事業の効果を判断して、継続するか、廃止するかという審議でよろしいか。

#### 【事務局】

そのようにお願いしたい。

#### 【大塚委員】

サイクリングプログラムを核とした地域活性化DMO推進事業について、KPIはKPIとしていいのだが、新会社の経営状況、各事業の売り上げなどの概要を説明してもらえないか。

新会社は補助金がなくなった後に自立しなくてはいけないのだから、経営状態を示すべきではないのか。

#### 【事務局】

経営状況の内容公開については、会社の判断も要すると考えている。

新会社の経営としては、3年目の自立化を目指すということで、そのための月間売り上げ目標を試算しており、その目標に向けて努力している状況にある。

#### 【渡辺委員】

会社をつくったときに民間レベルで単純にイニシャルコストをかけて事業化はできないので、そこをカバーリングするイニシャルコストを行政のほうから出していただいた。

我々のサイドで出資者、投資者として事業計画の検証を全部やっていて、3年たった時点で4年目から黒字化に入り自走していくという事業計画がある。

これに対して、現状はどうかという話になるが、現在の茨城県の有効求人倍率がかなり上昇したという背景もあって、予想以上に雇用が確保できなかったというのが事業計画を達成できなかった最大の原因だと思っている。

自転車のライドクエスト事業やレストラン事業などを回してきているが、平成29年5月の単月はキャッシュフローがプラスになっていることから、事業計画に対しての検証について前年度も行っていたが、今年度も行っていくことを考えている。ただし、経営母体は50%という最大の出資者である株式会社ステッチとなるので、PL、現状のバランスシートなどをこの場で公表することに対しては、ステッチの了解が必要となる。

現状では、株主総会に当行の関連会社からも出席しチェックしているが、前年度のビジネスモデルでは、自走化するのは難しいことはあるが、今年度に入って人の確保ができてから、売上高がある程度確保できている。やるべきことができているので、急激にお客さんが増えてきている現状に対応できるようになってきており、シェフが2人態勢になって休日もフル稼働できる状態となっている。

今後、この会社が自走化するに当たって、事業のベースになっていかなければならないのが、サイクリングプログラムもさることながら、6次産業化事業がポイントとなる。農家さんのニーズが非常に高い部分でもあり、スイーツを中心に一部商品化されているが、これをOEMにするか、自社で生産ラインをつくるかという問題はあるが、ここの部分の売上がたてていければ、4年目には自走化できるのではないかと我々サイドの目線では確認している。

経営状況の数字の公表については、行政と我々出資者と事業主体であるステッチと協議、検討したいと考えている。

#### 【大塚委員】

地方創生加速化交付金、推進交付金の目玉は、新会社の設立と運営であるから、新会社の代表に当会議に出席いただいてはどうか。

#### 【事務局】

次回は出席いただけるよう調整する。

#### 【川島座長】

新会社の代表に有識者会議に加わってもらってはどうか。

<出席委員から問題ないとの発言あり>

**【大塚委員】**

数字を公表することに対して、開示上の制限があるのであれば仕方ないが、形式的にK P Iについて話し合うのではなく、次回はある程度、経営的なことも分かるような議論ができる人なり資料なりの提示を要望する。

**【川島座長】**

そもそもこの会社がどんなに利益を上げようと100%公益ではないか。

経営母体の会社にどれだけ配当があるのかわからないが、そこは取締役会である程度制御できるのではないか。

**【渡辺委員】**

過半を握っていないので、暴走するということはないと考えている。ある程度、経営の自由度がないと自分たちのやりたいことができなくなるということもあるので、この会社は3セクでもない、民間でもないというセッティングにしたのもそういうところにある。

**【川島座長】**

変な制約をかけるべきではないが、応援して、問題を聴いて、知恵を出して、皆で力を出すという関係が必要である。

**【兵藤委員】**

サイクリング拠点である交流センターに投資、注力されていることはわかるが、これはかすみがうら未来づくりカンパニーの収益を追求するという問題があるのかもしれないが、市として交流センターの近隣にある水族館、お城なども含めた歩崎公園全体的なテコ入れというような計画、方向性はあるのか。また、それが可能なのか。

**【事務局】**

交流センターの周辺を含めた歩崎一帯をカバーするような計画は存在していない状況となっている。

現時点では、水族館や博物館など各施設を管理している部署も市役所内部ではわかれている状況にあるが、それぞれの部署ごとに連絡を取って、どういう施設、制度が必要なのかという協議の環境はできている。

平成29年度の交流センターの拠点機能強化をきっかけに、水辺や森林公園をどう活かしていくかなど市役所内で検討していきたいと考えている。

**【兵藤委員】**

歩崎には、かすみがうら市に対して好印象を持っていただきたいとか、かすみがうら市の産品に対しての注目を上げるとか、大きな意味での利益があると思っている。

レストランを訪れたから、水族館によってみよう、博物館まで歩いてみようとなったときに、かすみがうら市のイメージダウンになるようなことは、やはり避けたほうがよいのではないかと考えている。

**【川村委員】**

マルシェ事業でE Cサイトを立ち上げるという話だが、これはいつ頃立ち上げて、取り扱う品種、品物はどれぐらいを考えているのか。

**【事務局】**

E Cサイト自体は、昨年の事業の中で構築しているが、実際の運用は今年度、秋を目標に進めている。

現在、農林水産課でかすみがうら未来づくりカンパニーと連携してかすみがうら市の推奨米「ふくまる」を市外にPRしていることから、「ふくまる」を取り扱っていくことを考えている。

また、かすみキッチンで市内の生産者等と連携して使用している生鮮食品、加工品や市で推奨している「湖山の宝」の推奨品、ふるさと応援寄付の返礼品などを中心に取り扱い、今年度E Cサイトでかすみがうら未来づくりカンパニーが地域商社的な機能としての役割を行ってきたいと考えている。

**【川村委員】**

現在、どういう品物を取り扱えるかを探っている段階ということか。

**【事務局】**

生産者もかすみがうら未来づくりカンパニーもどちらもウィンウィンになれるような構築をしなければならないと考えている。

**【川村委員】**

E Cサイトのイメージとしては、かすみがうら市のお土産物、商品をすべて扱うということか。

**【事務局】**

扱えるような存在となることを目標としている。

**【川村委員】**

ぜひ、そういう取り組みをやっていただきたい。

現在、かすみがうら市の品物をネットで発注するところがないという状況なので、秋といわずにスピーディーに進めていただきたい。

定住促進サポート事業の中の子どもミライ学習について、Step 1とStep 2を一緒に行うという説明があったが、私の理解では、1年生のときにStep 1を実施して、その翌年に2年生となったときにStep 2を、さらにその翌年に3年生となったときにStep 3を行うものと理解していたが、Step 1とStep 2を一緒に行うとはどういうイメージなのか。

**【事務局】**

今年度は、1年生がStep 1を昨年Step 1を行った2年生がStep 2を行うことを予定しており、2つのStepを同一年度を実施することを想定している。

**【川村委員】**

最大で1年の間に3つのStepが重なるということであると思うが、それぞれのStep

を実施するタイミングというのは計画されているのか。

**【事務局】**

Step 1については2月頃、Step 2の地域資源見学は7月頃、ワークショップから新商品プラン発表を11月から12月に行い、1月から3月末までに新商品の試作、3年生のStep 3の販売体験については、7月頃を予定している。

**【川村委員】**

2年生のStep 2と3年生のStep 3の取り組みが7月頃に重なることがあるように思うが、対応する側として可能なのか。

**【事務局】**

2年生の地域資源見学は7月前半、3年生の販売体験は夏休み期間中という意見もあるので、時期的にまるっきり同時期になることは想定していない。

**【狩野委員】**

サイクリング拠点整備計画について、土浦市のほうでも駅に拠点をつくるという計画があるらしいが、そこの連携ということは計画にはないのか。

**【事務局】**

土浦市が土浦駅の駅ビル「ペルチ」を改修して拠点にするというもので、土浦市と茨城県の共同運営になると聞いている。この話は我々のほうも土浦市から説明をいただいているし、立ち上がりが来春の3月末と聞いているが、それが立ち上がる時期にハードを整備するだけではお客さんが寄ってくれるということにはならないことから、間違いなく土浦市としてもお客さんを呼んでそのお客さんをどういうふうに自転車を体験していただくかというようなソフト事業を打ち出してくることになる。そのソフト事業に関しては、かすみがうら市としても、例えばかすみがうら未来づくりカンパニーが拠点としている歩崎まで自転車に乗ってきてもらって、何か体験してもらい、さらに土浦市内を回るといったようなプログラムを一緒に組んでいければと考えており、しっかり連携していきたいと考えている。

**【狩野委員】**

定住促進サポート事業の子どもミライ学習でアンケートを取られていて、「もっと好きになった」人もいれば、「できれば住みたくない」という人もいれば、プラスマイナスあると思うが、どんな印象があって住みたくなったのか、何かイメージがあって住みたくないとか、何か理由があっての回答なのか。

**【事務局】**

今回、1年生を対象とした出前授業を実施した結果として、最後にアンケートを行ったもので、元々地元が好きだという子どももいるし、転入してきてあまりかすみがうら市のことを知らない子どもなど、いろいろ違いはあると思う。

何か理由があって好きじゃないのかという詳細については、拾いきれていない部分はあるが、3年間をかけてどのように子どもたちの意識が変わっていくのかというのを見ていこうと考え

ているので、1年生でこうだったけれど意識的に2年、3年でどう変わったか、元々のスタートラインからどう変化したのかというところに、このプログラムを実施した成果、効果を見ていきたいと考えている。

アンケート結果は、中学校3校の結果を取りまとめたものを資料として整理しているが、中学校それぞれでみると特徴があって、もっと好きになったとか、ぜひ住みたいという前向きな回答をしている子どもの割合が一番多いのが霞ヶ浦中で、次に千代田中となっている。下稲吉中は一番少ない状況となっている。ただ全体でみると比較的前向きな回答をする子どもが多いという結果となっている。地域ごとにばらつきが出ているというところに、もしかしたら何かきっかけがあるのではないかと考えている。

#### 【工藤委員】

定住促進サポート事業の中の同窓会プロジェクトに30歳の大同窓会とあるが、これは大変いい企画だと思う。出ていった方に再度地域の良さを認識してもらいたい機会だと思う。

実施後のアンケート結果では、出ていった方の約半数がやっぱりかすみがうら市に住みたいという考えをもっているので、こういう方をいかに根付かせるかということが大事なことである。

かすみがうら市も平成12年から既に人口減少が始まっているので、こういう人に着実に住んでいただくという工夫がより大事だと思う。その取り組みの中で「かすみがうら地域産業プラットフォーム」という組織を設立されて、いろいろな専門家の方で活動していると思うが、ここの機能はすごく大事だと思う。こういう方が実際にどのような活動をやっているのか。

創業支援事業だが、平成28年度の実績が21件ということで結構多いと思うが、その中で女性が3名ということで、比較するとそんなに多くはない状況となっている。

取り組みを見ると女性のための創業支援セミナーを組んだりして、女性の創業を意識していると見受けられる。

そんな中で、群馬県の信用保証協会が女性の起業を促すための女性職員のチームをつくって相談に応じているという例がある。女性の創業希望者は女性に相談したいという考えがあって、それを踏まえて群馬県の保証協会がチームを作って対応していて、非常に成果が出ていると聞いているので、今後女性の起業を増やしていくような、女性の目線もあるとさらに実績が増えると思う。

#### 【事務局】

プラットフォームに参加している方は、地元で事業を実施している方が中心になって、子どもたちの教育のところで地元で輝いている姿、活躍している姿をじかに見ることによって、影響を受けるだろうということをもとにスタートしている。

実際にいろいろな業種の方がいるので、例えば商品開発をしていくうえでもアドバイスもできるし、開発の手伝いもできるだろうということで、現在の構成員でスタートしている。

構成員の方々は地元で他の役職もしている方なので、定住促進サポート事業だけで活躍して

もらうというのはもったいないという考え方があり、このメンバーでできることを考えていこうと、そういう仲間にしていこうと方向性を確認しているところである。

**【川島座長】**

いま議論している事業については、平成29年度も同じ事業を同じような額で動くという前提で議論しているのか。

**【事務局】**

平成29年度については交付金がなく、独自事業として単費で継続して実施する予定である。

**【川島座長】**

子どもミライプロジェクトやサイクリングプロジェクトに比べると、創業支援でセミナーを実施することは極めて一般的なことをやっているの、農業や漁業、独自の6次産業などに集中して創業支援を実施するということが見えなくて、プラットフォームがそういう意味での本当の現場に即した連携プレイによる創業支援とか、ビジネス連携を支援しなくてはいけないのではないか。

**【事務局】**

1年目については、オーソドックスな手法で創業支援事業を実施したが、創業支援の目指すものは、新しい会社を立ち上げて雇用吸収力を期待するというのではなくて、どこかに勤務するのではなくて、自らビジネスを起こすという人たちを発掘して、応援していきたいという思いがある。

昨年の実施結果から、セミナー等へ女性やリタイアしたがまだまだ元気で新しいことに挑もうかという参加者が結構多く、こういう人たちをどんどん増やしていかなければいけないと感じたところである。

新しく創業したい人を先輩の起業家が応援していくとか、教えるとか、創業・起業コミュニティみたいなものをつくっていくのが新機軸かなと思っている。

平成29年度はまだ事業内容が固まっていない部分もあるが、そういったことに取り組みたいと考えている。そのために独立行政法人中小企業基盤整備機構がT I P \* Sという創業者コミュニティを丸の内の前に設置していて、そのT I P \* Sが地方展開をしたいということで、地方の創業予備軍の人たちを東京駅の前に来てもらって、T I P \* Sの創業ファシリテーターが地方に展開してコミュニティを活性化させていくという相互のやり取りが始まっているので、ぜひそういった流れを使ってみたいなと思っているところである。

**【川島座長】**

自分で仕事をつくれる方々、その地域の資源を活かす方とか、できれば出身者ですでに成功している方々が現実の事例でもって、生々しく伝えるのは迫力があると思う。

創業支援については、ターゲティングをもう少し明確にするなどの工夫も必要かと思う。

もうひとつ、市民一般にこの動きを還元するというのが、有識者会議の中で閉じているのはもったいない感じがするので、なかなか難しいと思うが、青年会議所や地域の産業を考える

人たちがあるいはそういった方々とこの議論をシェアして、応援してしてくれる方々の連携プレイによる効果を出さないともったいないので、そういうことを考えればいいのではないか。そういうことが、さらなるネットワークの動きを高めるような気がするので、せっかくここまでやっているのだから、この成果がここまでいってここが難しかったけどこういう効果が出たということなどをさらに中学生、高校生、一度出てしまったけれども休暇で戻っている人など、市民を巻き込んでワークショップを開催するなど、市民の理解を深めることも必要なのではないか。

30歳の大同窓会については、誰かがしゃかりきを集めれば50人ぐらいは集まるのではないか。これは、単純に時間が十分でなくPR不足ではないのか。

#### 【事務局】

昨年度の30歳の大同窓会の58人という実績は、PRの時期が限られていたということが一番の原因と考えており、その点を踏まえ、今年は100人集めたいと考えている。

地元に残っている若者たちのネットワークでもって声かけをしてもらって100人集めるといのが正攻法だと思うが、その点に関しては、そういうネットワークをもった若者の実行組織というものを十分オーガナイズできなかった部分があると考えている。

#### 【川島座長】

かすみキッチンには社長がいるので、キーパーソンが明快であるが、他の活動はキーパーソンが見えないので、そういうことをもう少し鮮明にしたほうがよいのではないかと思う。

それでは、地方創生加速化交付金事業については、効果が出ていたり、検討しなくてはいけない部分もあるが、継続すべきとの結論でよろしいか。

<異議の発言なし>

- ② かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略「アクションプラン進行管理表」(H29.3末現在)(案)について

#### 【渡辺委員】

法人(企業等)の参入支援の部分について、取り組みの進捗状況が75%に対して、KPIの達成が200%となっているが、取り組みはすべて実施できていないが、目標は達成できたということか。

#### 【事務局】

市が取り組んでいる施策と連動しないところで、2団体の参入という成果が出ている。

#### 【渡辺委員】

積極的な企業誘致の部分では、取り組みの進捗状況が100%に対し、KPIの達成状況が25%ということは、取り組み方法が悪いのか、それとも目標設定が高いということなのか。

#### 【事務局】

積極的な企業誘致については、当市の総合戦略が働く場の創出、確保というのが大きな柱になっていることから、この部分の目標は高く設定している部分もある。取り組みとしては計画どおり実施しているが、立地する企業の意向もあるので、なかなかマッチングが進まないという状況もある。特に本社については難しい面もあると感じている。現段階では結果にはならないが、立地について進行している案件もあることから、今年度以降達成割合が高くなることが予定されている。

**【渡辺委員】**

創業件数が21件ということであるが、どんな形の創業なのか。

創業支援ネットワークについて、金融機関との連携があまり進んでいないようなので、この辺の取り組みをもう少し進めれば、創業もさらに増加するのではないかと。

企業誘致と創業をあわせた施策というのが、もしかすると今年度以降の展開の中で必要なのではないかと思う。また、廃業の問題もあるので、事業承継もあわせていかに繋いでいくかということもある。

**【事務局】**

平成28年度の21件の業種については、11月までに調査することを予定している。

**【川島座長】**

金融機関の各支店の方との定期的な交流会は行っていないのか。

**【事務局】**

創業支援ネットワーク会議を年2回開催し、そこで意見交換や情報交換を行っている。

**【川村委員】**

戦略策定後2年を迎えようとしている現在、PDCAでいえばもうチェックをしてどのようなアクションを起こすかという時期である。

達成状況や進捗状況のレーダーチャートなどに示された結果を踏まえ、今後どのような取り組みを行うかという提案があると思っていたが、これについてはどのように考えているか。

また、各部局の進捗、達成状況が示されているが、この結果から各部局でどのように考えて、今後アクションを起こすのかというのは、地方創生担当としては、何か対応を取るのか。

**【事務局】**

年に2回程度、各部局とのヒアリングを行っている中で、計画に対して達成若しくは取り組みができていない部分については、各部署と協議をしながら達成に向けての意見交換を行っている。

今回、そういったヒアリングの結果から、総合戦略の取り組みを見直している。

**【川村委員】**

今回、説明された見直しぐらいでは、達成状況が改善される見込みはあまりないと思われる。

施策の見直しをする、施策を取りやめる、あるいは新しい取り組みに切り替えるということも必要である。

また、重複している施策について、同じ結果指標が記載されている部分が見受けられるので、見直すべきと思うが。

**【事務局】**

重複している施策については、今回の見直しで整理することを提案したいと考えている。

**【兵藤委員】**

取組進捗状況について、4年間の取り組みを継続することによって、目標が達成されるという理解でよろしいのか。現時点で100%に達したから取り組みをやめるということではなく、取り組みを継続するという理解でいいのか。

**【事務局】**

継続して取り組んだ結果として目標達成することを目指しており、目標が既に達成したからやめるということではなく継続して取り組んでいきたいと考えている。

**【櫻井委員】**

廃校の活用で、1か所活用が決定したとの説明があったが具体的にはどのような活用をするのか。

**【事務局】**

旧宍倉小学校について、公共的活用をすることが決定したものである。

**【櫻井委員】**

女性の創業支援に絡んで、例えば女性がかすみがうら市の農産物を活かした加工品をつくって、販売することを目標において仕事を創ろうとした時に、女性たちが廃校の給食室を利用するというシステムができるといいと思うが、その辺はどうか。

**【事務局】**

廃校の活用については、地域の説明会などの段階を踏んで進めてきた中、昨年、宍倉小を除く5校の活用について公募をして5校中4校に活用を希望する事業者があり、優先交渉権者が決まったという状況にある。今後、活用内容の詳細を事業化に向けて進めていくこととなる。

そのような状況にあるが、給食室を使用したいという声が出てきたときに、まだ、優先交渉権者が決まっていない学校もあるので、そういうところで協議していくことはできるのではないかと思うが、そこについては、平成29年度に再検討するという事になっている。

**【川島座長】**

アクションプラン管理表については、公表を予定していると思うが、本日の資料すべて公表することになるのか。

**【事務局】**

基本的にはすべて公表することを考えている。

**【川島座長】**

施策部署別の進捗状況も含めて公表するという事か。公表するという事は説明責任を伴うことなので、部署によって異なる進捗状況については、説明できる状態にしておかなければ

ならないのではないかと。

**【事務局】**

今回の有識者会議での意見を踏まえたうえで、最終決定機関であるかすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部に公表部分の検討も含め提案したいと考えている。

(2) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2017改訂版）（素案）について

**【兵藤委員】**

市内に太陽光発電が増えているが、その話題は戦略会議の中ではいろいろな意味も含めてでているのか。

**【事務局】**

戦略の中にエネルギーの地産地消等取り組みのところに、太陽光ではないが新たに再生可能エネルギーの可能性を検討しようということになっている。例えば、太陽光で発電した電気を活用して別の発電をすることなど話題になっていた。その際に太陽光発電については、既に補助制度があったことから市内での設置が促進された経過がある。

**【菊池委員】**

果樹のふるさと再興という施策が最初から入っていなかったというのは、何か理由があるのか。

**【事務局】**

果樹のふるさと再興については、平成27年12月の総合戦略策定時にはそういったアイデア出しがされなかったということで、事業としての計上はされなかったが、その後、事業後継者不足というのがこの数年で急速に進んだところがあって、農林水産部署でも地域の農家さんから、そういった声を聴くことが増えてきたという中で、今回、新規に事業提案があったと理解している。

**【川島座長】**

今回、湖山の宝巡りパスポートを深化させて、地域ポイント制度を導入するということであるが、それはどのような制度となっているのか。

**【事務局】**

基本的にはブロックチェーン技術を用いた制度として構築し、事業に参加された方にポイントを付与して、市内の商店等でそのポイントを使用していただくということで、そのことにより、事業への参加促進と市内での経済循環、消費拡大につなげたいと考えているものである。

スタートとしては、サイクリング事業、健康づくりに関する事業、子育て支援事業などを考えているところであるが、いずれにしても現在、制度構築を進めているところである。

**【川島座長】**

総合戦略の見直しをするに当たっては、PDCAサイクルを回して進行管理を行った結果、課題、問題等を分析した結果、こういう形で見直したというロジック説明が必要となるので、

その点、整理しておく必要があるのではないか。

**【事務局】**

ご指摘を踏まえ整理していきたいと考えている。

(3) 意見討論（自由討論）

<時間超過のため未実施>

**5 その他**

次回のスケジュールについては、9月下旬の開催を予定している。

**6 閉会**